

## 次の10年へ 状況を変えよう!

### 災害列島日本「損保産業は被災者のライフライン産業でもある」

私たちは今日から結成21年目、次の10年の活動に入ります。この一年、昨年の総会で「私たちの運動で"山が動いた"」と総括したことに確信を持ち、20年の節目の年として多彩な活動を重ねました。特に、今年は「災害列島日本」といわれるように台風・風水災・地震の相次ぐ発生によって、顧客・契約者との最前線に立つ損保労働者・代理店の仲間が大変な労働環境に置かれたことも明らかになった一年でした。

#### 主な取り組みを振り返る

- 20周年記念イベントとして2月「原発のリスクとコスト」(大島堅一さん)、4月「南スーダン最新情勢を学ぶ」(西谷文和さん)、10月「淀川ツアー」(満席予約も台風接近のため運航中止)など取り組みました。
- 6月8日、4年連続の代理店シンポジウムに過去最高の176名が参加しました。また11月2日、参議院議員会館において「院内集会実行委員会」主催で開催された第2回損保代理店院内集会には、昨年を大きく上回る134名が全国から参加しました。この集いには大阪損保革新懇からも多数参加、連帯して行動しました。
- 6月、過労死シンポジウム(札幌市)参加ツアーに20名が参加。その直後8月、損保労働者の残業問題・雇用問題などでお世話になった森岡孝二関西大学名誉教授が急逝されました。哀悼の意を表明します。
- 前年から取り組んできた「安倍9条改憲NO! 3000万署名」には5000筆目標でとりくみ、会員の様々な努力で5,167筆を集約、総がかり実行委員会に届けました。
- 9月、沖縄知事選挙では玉城デニー候補支援カンパを沖縄革新懇に送りました。
- 10月、松浦世話人の論文「災害列島日本で損害保険産業の国民・消費者のための損害保険産業をめざして」が『前衛』11月号に掲載。この論文を活用した活動を展開します。
- 「結成20周年記念ブックレット」刊行の討議と作業を進めています。

#### 憲法改悪めとめない! アベ・維新政治を終わらせよう!

この一年、安倍政権の悪政・暴走がさらに明らかになりました。森友・加計問題、公文書改ざん、日報の隠ぺい、裁量労働制のデータねつ造、中央官庁の身障者偽装雇用、トランプ会談での「TAG」(物品貿易協定)の新語ねつ造など「ウソつき安倍政権」に対し国民の怒りは大きく高まっています。

その象徴は沖縄知事選・豊見城市長選・那覇市長選での「オール沖縄」勢力の圧勝に示され、大きな激励を与えてくれました。三選された安倍首相は「憲法改正」を急ごうとしています。来年の参議院選挙で、沖縄のように野党が共同して統一候補を立てれば、改憲勢力が3分の2を取ることは絶対不可能です。前回の参議員選挙では野党統一候補が実現した11選挙区で勝利した教訓を全国的に活用できれば、憲法改悪阻止とともに「安倍政権を終わらせる」ことにつながります。大阪では「カジノはいらん!都構想反対!維新政治を終わらせる」たたかいても大切です。私たちも、真の「市民と野党の共闘」が進むことを期待して、職場革新懇の立場から連帯・共同・行動していきましょう。

#### 災害列島日本「損保産業は被災者のライフライン産業でもある」

今年は大阪北部地震・北海道胆振東部地震・西日本豪雨・21号台風など災害列島日本と言われるような大災害が発生、損保労働者と損保代理店は、損保産業の補償機能を発揮すべく、相談・調査・支払いに奮闘しています。しかし損害サービス現場の人減らし合理化のもとでの支払完了率の企業間競争は、適正な支払をゆがめる危険性と両刃の剣となっています。併せて代理店手数料ポイント制による代理店の存立基盤の脆弱化は、社会・契約者から求められるサービスや大災害時の対応に矛盾を拡大することになります。

私たちは「活動の3座標軸」の中に「損保は国民生活に密着したセーフティネット産業である」を掲げていますが、今回の損保労働者・損保代理店の貴重な体験から「損保産業は被災者のライフライン産業でもある」ことがより明確になりました。

私たちは2003年3月『どうなる どうする 損保の未来』、2006年7月『私たちも憲法改悪に反対します』を刊行、それぞれ7000部を全国の仲間へ届けました。現在、世話人会では「単なる20年回顧ではなく、情勢をしっかりとらえ、今後の決意・展望を含めたブックレット第3号」の編さん作業を進め、2月刊行予定です。

さあ! 次の10年目の活動に入ります。「私たちの運動で"山が動いた"」状況をさらに発展させ、日本の政治と経済と損保産業を国民本位に変えていくために奮闘することを誓い合ひましょう。